

氏名	榑 崎 慎 二
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 5188 号
学位授与の日付	平成 27 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Postoperative change in the length and extrusion of the medial meniscus after anterior cruciate ligament reconstruction (前十字靭帯再建術後における内側半月板前後径と逸脱の変化)
--------	--

論文審査委員	教授 木股 敬裕 教授 光延 文裕 准教授 西田 圭一郎
--------	------------------------------

学位論文内容の要旨

前十字靭帯 (ACL) 再建術によって膝関節の前方不安定性は改善するものの、長期予後として変形性膝関節症が発生することがある。我々は ACL 再建術によって内側半月板 (MM) の位置や大きさが変化すると推測している。本研究の目的は、ACL 再建術前後における MM の位置や大きさを調査することである。ACL 再建膝 28 膝と正常膝 27 膝を調査した。単純 X 線で内側脛骨プラトー前後径 (MTPL) と内側脛骨プラトー横径 (MTPW) を測定、MRI で MM 前後径 (MML), 横径 (MMW) と逸脱 (MME) を計測し、術前後および正常膝との比較を行った。術後の MML, %MML, MME が術前および正常膝と比較して有意に増加していた。MMW, %MMW は同等であった。ACL 再建術によって MM の位置や大きさが変化することは、将来的な変形性膝関節症を引き起こす原因となる可能性がある。

論文審査結果の要旨

前十字靭帯断裂後の治療は、術後の機能ならびに長期的な変形性膝関節症などを考慮すると、再建術が第一選択である。一方、再建術後にも、頻度は少なくなるが変形性膝関節症は起きるとされている。しかしその根拠を示した報告はない。申請者は、前十字靭帯再建術の前後の画像診断を用いて、内側半月板の前後長が明らかに増加することを、世界で始めて明らかにした。この変化を明確にしたことは、今後そのメカニズムの解明とさらなる再建術の改良に結びつくと考えられる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。